■加藤民吉　　陶工。苦労して天草留学の末，瀬戸磁器の大発展を招き，尾張徳川家御用達となった。
かとうたみきち
田沼意次老中1772＝　　尾張国瀬戸村で，窯屋吉左衛門の次男に生まれる。この年，加藤唐左衛門も誕生。

・・・・・・1781＝ **9歳：**
天明大飢饉始1782＝10歳：この年から天明の大飢饉が始まり，

田沼意次失脚1786＝14歳：この年，田沼意次が失脚して，
寛政改革始・1787＝15歳：この年，寛政の改革が始まるというように，社会不安が続き

異学の禁・・1790**＝18歳：**
混浴禁止・・1791＝19歳：この年，後に尾張三名奉行といわれる津金文左衛門が熱田奉行兼船奉行となる。

松平定信引退1793＝21歳：
この間，**_意次時代の自由な経済からの激変に対応できず窯屋廃業が続出し，陶業が戸主に限られることになったため，**

昌平黌始・・1797＝25歳：この頃，**_熱田奉行兼船奉行津金文左衛門が開発した新田に，家督を長男に譲った父吉左衛門とともに入植したところを巡視中の文左衛門に見出され，**
古事記伝・・1798＝26歳：**_父子とも瀬戸村に戻され，窯屋取締役唐左衛門に協力することになる。折から有田焼の佐賀藩から逃亡中の名工副島勇七が瀬戸村を訪れていて，有田焼の技術修得がしたくなり，直接佐賀藩へは行けないので，唐左衛門から藩に天草留学を願い出てもらい，**
蝦夷地直轄始1799**＝27歳：**
伊能測量始・1800＝28歳：この年，変装して尾張に来た佐賀藩捕吏に捕縛された副島勇七が斬首される。この年，文左衛門が熱田海浜の開拓に着手，
宣長没・・・1801＝29歳：**_この年完成した熱田前新田出費の責を負って文左衛門が自害するも，その遺志を継いだ養嗣子津金庄七に物心両面から支えられ，**
ﾚｻﾞﾉﾌ来航・　1804＝32歳：***ようやく天草留学が許可されて，郷土の期待を一身に担って現地に赴くや，祭り見学理由に，有田焼産地へ向かい，門外不出の禁に何度も撥ね退けられながら，ようやく平戸山間の村で受け入れられ，**
ﾚｻﾞﾉﾌ報復・　1806＝34歳：結婚もして修業を開始するが，やがて危険の迫るのを感じて，
ﾛｼｱ船狼藉・　1807＝35歳：当主にも信頼されて定着を求められるも断り，妻を残して***帰郷すると，それまでの地元での開発努力と重なって，以後，瀬戸窯の技術革新が一気に進み，**
間宮海峡発見1808**＝36歳：**
_藩の全面的支援もあって，三都を中心とした全国への販売ルートも確立して行き，

伊能測量終・1816＝44歳：この年には，***染付焼窯屋数が本業焼窯屋数を上回るまでになる。**
杉田玄白没・1817**＝45歳：**
水野忠成老中1818＝46歳：

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝52歳：**_没した。**
なお，有田焼への接近を支えてくれた寺の住職は，その後佐賀藩から追放されている。

「人づくり風土記(愛知)」，インターネット，